

土地利用型作物の安定多収技術の普及

は種精度向上・穂数確保による春まき小麦の安定生産

活動年次：令和3～4年

石狩農業改良普及センター石狩北部支所

1 課題設定の背景 *****

春まき小麦収量不安定＝茎数・穂数に年次間差

対象：石狩市美登位地区（7戸）

令和3年度の解析

地区の春まき小麦栽培の現状は・・・

- ◎適期には種できている
- ◎適期防除の実施で、病害虫の発生なし
- 幼穂形成期追肥は検討されていない（1戸のみ実施）

▲は種位置が深い、不安定

↓

出芽不良に伴う穂数不足が低収の原因



令和4年度取り組み

◆春まき小麦の「は種」に注目。は種位置の適正化・安定化を課題に取り組む

（合わせて施肥改善の効果の検証基本技術の励行を支援）

- ・春まき小麦の安定多収は地域の願い
- ・令和3年度の実態調査から課題を選定

2 活動の経過 *****

課題解決のため → 全戸で1筆定点ほ場を設置
 ほ場条件・耕種概要などを聞き取り、要因解析、実証、情報発信

【取り組み目標】	【実施項目】	【提案内容】
は種深度の適正化	・ほ場確認 ・ドリル幅調査	調査結果提示
施肥改善 (幼穂形成期追肥) (基肥増肥)	・実証ほ場設置 ・土壌断面調査	・実証ほ場結果提示 ・施肥改善の判断資料
基本技術の確認 (土壌pH) (病害虫防除) (収穫期)	・ほ場確認 ・pH測定 ・巡回調査 ・穂水分測定サンプルが2～3回/戸	・各ほ場の石灰質資材施用量提示 ・病害虫防除収穫適期の情報発信

スムーズな活動のために

栽培ほ場の見える化
↓
地域の農家間の取り組みを共有化

作付け予定地の耕地図作成（4月）



ドリル幅で各列毎のは種深度を把握（5月）



活動結果の報告・検討会（12月）



中間報告、病害虫防除の情報発信（7月）

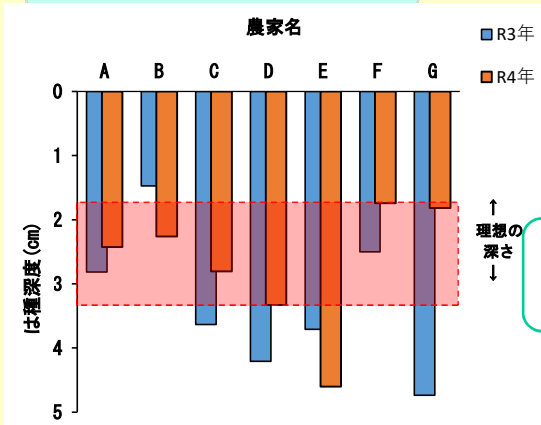


定点ほ場・実証ほ場で調査（4～8月）

3 活動の成果 *****

は種深度の適正化による穂数確保

7戸中6戸が理想の深さになった。



地表面



R 3 年

えっ!?
こんなに深い?
G農家

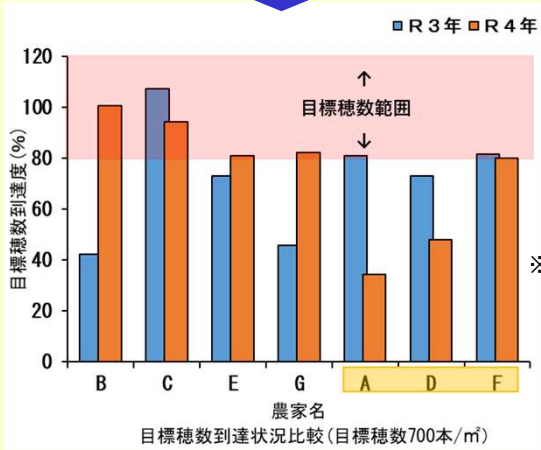
地表面



R 4 年

は種位置の適正化で、5戸は目標穂数を達成!!

来年は
目標の深さに
調整するぞ



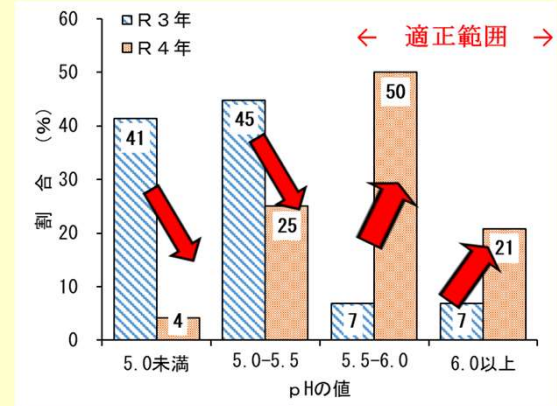
※網掛けA・D・Fは初冬まき

穂数確保、pH適正化で、増収を実現!

pHの適正化

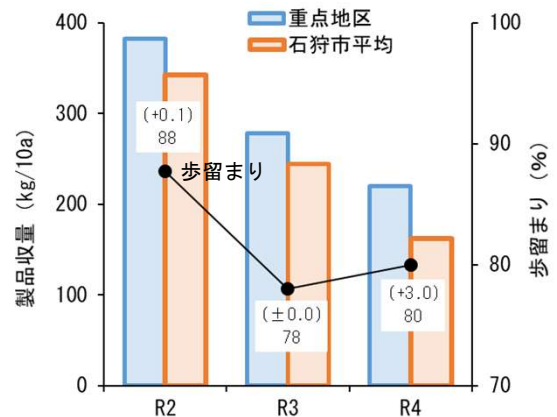
適正範囲の割合が増えた。

麦類作付け予定の全ほ場に対して土壌分析に基づくpH矯正の石灰質資材施用量を提案。施用の結果、適正pHほ場の割合は全体の7割に達した。



地域の収量水準UP (10aあたり収穫量)

地域の平均収量は石狩市平均より高く、R4年の歩留まりは市平均を上回った。



春まき小麦製品収量、歩留まりの推移 ()は石狩市平均との差

4 今後の活動 *****

- ・耕地図を活用し農家各戸・普及センター職員相互の情報共有を続ける。
- ・得られた有用な情報について地域へ波及・定着に向けた取り組みを行う。